

■報告

2009 年度 法政大学第 7 回 FD シンポジウムを開催

10 月 10 日（土）、市ヶ谷キャンパス外濠校舎 3 階 S305 教室で、「第 7 回 FD シンポジウム」が開催されました。FD 推進センターは、2005 年 4 月に発足し、今年度 5 年目を迎え、さまざまな啓蒙活動から、より日常的な活動への転換を求めるべく「Faculty Development」としての FD の原点を問い直すことが必要とされてきているのではないかとの視点から、シンポジウムを開催しました。「Faculty の活性化としての FD を問う」というテーマで、FD についての先駆的な理論や活動を進めてこられた方々をこのシンポジウムにお招きしました。

増田壽男総長のご挨拶で開会し、パートⅠとして、『FD/SD を「わがこと」とするために』—大学政策の変転とサバイバルのもとで考える—と題して、学校法人立教学院本部調査役の寺崎昌男氏が基調講演を行いました。パートⅡでは、話題提供としてシンポジストの関西大学教育開発支援センター長の池田勝彦氏から「関西大学における教育改善への取組」、弘前大学 21 世紀教育センター教授／高等教育研究開発室長の土持ゲーリー法一氏から「国際比較から見た FD/ED 活動の現状」、立命館大学教育開発推進機構講師の井上史子氏から「新任教員を対象とした実践的プログラムの開発と試行」と盛り沢山の話題提供をいただきました。本学からは、川上忠重 FD 推進センター長（理工学部教授）が「法政大学における FD の取り組みと事例」について報告しました。

パネルディスカッションでは、寺崎氏とシンポジストの 4 氏、指定討論者の本学の平塚眞樹社会学部教授（FD 推進プロジェクトメンバー）と坂本旬キャリアデザイン学部教授（学習・教育支援プロジェクトリーダー）を交え、活発な意見のやりとりが行われました。総合司会は、坂本旬教授が、パートⅠの基調講演司会は後藤浩子経済学部教授（FD 推進プロジェクトメンバー）が担当しました。パネルディスカッションでは、会場からの質問にも応え、和やかで有意義な質疑応答が行われました。増田壽男総長、浜村常務理事も開会から閉会まで出席し、FD の歴史や内外の FD の実情などについて熱く話されるパネリストの方々のお話に耳を傾けていました。これからの大学の FD 推進において確かな手ごたえを感じるシンポジウムとなりました。

全国 34 大学のほか、（財）大学基準協会、民間企業からも参加がありました。その中で秋田から徳島など遠方からの参加も多数ありました。また、本学の大学・付属校の教職員、校友会、同窓会の方も参加し、参加者、関係者含め 110 数名に及び、盛大に開催することができました。

シンポジウム後にボアソナードタワー 25 階スタッフクラブで行われた情報交換会にも大勢の方が参加し、パネリストの方々とともに歓談されました。

FD 推進センターでは、今後もシンポジウムやフォーラムを通して、学内外の交流、情報交換を推進し、より良い FD 改善とは何かを考えるきっかけを提供していきたいと思ひます。

次回以降の企画にも皆様のご参加をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。